中富小だより

所沢市立中富小学校　学校通信第12号
平成31年2月4日発行

学校教育目標
「なかよく　かしこく　たくましく」

三つの約束
〇あいさつ
〇整理整頓
〇時間を守る

児童数		
	1年生 51名	4年生 58名
	2年生 50名	5年生 55名
	3年生 53名	6年生 63名
	全校児童数	330名

あらためて“あいさつ”について考える　校長　関根　祐一

厳しい寒さと、乾いた北風が続いていますが、暦の上では立春。寒気を溶かし割るように東昇降口前の梅と水仙が花を咲かせ始めました。小さいけれども力強い息吹を感じます。春を呼んでくれているようです。

学校でも１日（金）に新入学児童保護者説明会を開催しました。今年度のまとめに取り組むと同時に、来たる春に向けて準備を進めているところです。

東昇降口前の梅と水仙

さて、先日、大変うれしいことがありました。

見守り隊の方々との意見交換会の折「元気に登校できているように見受けます。」「あいさつができるようになったと思います。」「はじめに、ベストを着ているとあいさつをくれるようになり、今は、ベストを着ていないときでも会うとあいさつをしてくれるようになりました。」といったお話をいただけたのです。“あいさつ”については、「中富小３つのやくそく」の１つとして、とても大事にしていることであり、今年度は年間を通して節目々々の月目標に設定（４月：元気なあいさつ 返事をしよう、９月：目を見てあいさつ 返事をしよう、１月：自分から進んであいさつしよう）して取り組んできました。私も、朝の登校指導や廊下で子どもたちとすれ違うときに、これまでにも増してあいさつができるようになってきたことを感じていたところでもありました。三段階目の“自分から先に”というめあてについては、今、頑張っているところですが、以前も触れましたとおり、本校の子どもたちは本当に明るくやさしい表情で温かさに満ちた気持ちのよいあいさつをしてくれます。自分があいさつをすることで元気が出て、気持ちのよいあいさつをもらうことで、清々しい元気が更に貯められていくという毎日です。

気持ちのよいあいさつを交わすうれしさを感じるときに、思い出す言葉があります。二十数年前、先輩の先生から投げかけられた言葉です。「関根さん、子どもたちがしっかり学び、活動している学校って、どんなところに表れてくると思う？」「僕はね、あいさつに表れてくると思うんだよ。」あいさつができるようになれば必ず学びが高まるということではありませんが、豊かな関わり合いがあり一人一人の子どもが認められ、活躍の場がある学校で、あいさつに活気が表れてくるのは確かに自然なことであろうと思います。本校の子どもたちのあいさつも、重点として取り組んだ成果であるとともに、学校生活の充実が土台になっているのではないかという期待があります。学校生活の充実が、学びに、笑顔に、そしてあいさつに表れる中富小でありたいと思います。

今月もよろしくお願いいたします。

お知らせ

来年度４月、本校に特別支援学級を設置いただける運びとなりました。

これまでも取り組んでまいりましたが、子ども一人一人に寄り添った教育活動と、子ども同士の認め合い・学び合い・支え合いが一層深まり高められるよう、尽力してまいります。

今、本校ではインフルエンザの蔓延が懸念される状況です。学校内でマスクを着用して過ごすようにして、子どもたちの健康保持とインフルエンザの蔓延防止に努めています。状況が落ち着くまでの一定期間取り組んでいくことを考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。